



伊豆市議会 平成27年度 第2委員会 行政視察報告

飯田正志

日時 平成27年7月15日—17日

第1日 7月15日 福井県勝山市

目的 子育て支援日本一の取り組みについて

生まれている子どもに対しての施策は、数多くあり、親にしてみると大変ありがたいことではある。そこで、第2子、第3子を産みたいと考えると思う。しかし根本的な問題である、結婚して子どもを儲ける為の施策は、まだ試行錯誤の中だという。

データを見ると、昭和50年の出生数は475人、その後5年後との数字は407人、338人、295人、245人、188人、204人、160人、そして平成26年は154人である。

そしてその中で、第3子以上の数は26人から41人のあいだで推移している。

各種の施策を、実行してきてはいるが、人口全体が減少している中結婚適齢期の人達が、結婚できて子どもを作れるような環境作りが必要なのだろう。一つの考え方として、働く場所があり生活できるだけの所得があることが、必要条件だと思います。

伊豆市においても、伊豆市内で働いてもらう事は、もちろんだが、伊豆市外（近隣の市町）でも働ける場所があれば、後は通勤の方法の便利さと、伊豆市に住みたいという環境作りが大切である。そこらの事について今回の視察は参考になりました

具体的には次のようなことです。

① にこにこ妊婦奨励金

妊婦検診を福井勝山総合病院で1回目から受診し、県内の病院で出産1回につき10万円

② 不妊治療への助成

不妊治療に対し、県も含めて治療費の半額（上限50万円まで）を助成。人工授精も適用、所得制限もなし。

③ 妊婦健診無料化

基本的な妊婦検診は14回まで無料

第2日 7月16日

① 石川県金沢市 目的

北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取り組みについて

金沢市はもともと独自の発展をしてきた町であり、第2次世界大戦の空襲にも遭わず、昔ながらの街並みや、数多くの文化財が残されているという、有利な条件のもと色々な施策を講じやすいと思った。そして美術工芸大学や民間との産官学の連携も良く色々な仕掛けができていた事が少し羨ましく感じた。

その中の一つに、古地図めぐりが有る。

この古地図は、江戸末期の安政4(1857)年頃に作成されたもので、金沢は、戦災や大きな自然災害にも遭わなかった事から、今も藩政期の町割りが残っていることを利用して、昔と今の街並みを比べながら、散策し文化の薫りや実際残っている、文化財を見たり触れる事を楽しんでもらう仕組みを構築している。

それに、古地図めぐりのガイド(まいどさん)がいる。金沢をより深く知ってもらう為に活動している、観光ボランティアが350人いる。基本的にガイド料は無料ですが、まいどさんの交通費、入場・入館料、昼食代等の実費は負担してもらう事になる。

② 富山県射水市 目的

中学校の統廃合についてと新湊中学校訪問視察

平成20年12月にPTAの役員等で構成する「奈古中学校の教育環境を考える会」が発足し、平成21年2月に「他校との統合も視野に入れた、教育環境の整備についての調査研究の実施など」を盛り込んだ要望書が、教育委員会に提出された事から奈古中学校と新湊西部中学校の統合が検討され始めた。

ここも、生徒数の減少による学級数の減が見込まれ、将来的に学級数の減により専門教科教員の確保が出来なくなることや、部活動数の減が予想された。それと、奈古中学の老朽化や新湊中学の大規模改造を計画する時期などがあり、①子供達にとって望ましい教育環境を確保する。②学級数の維持。③専門教科の教員を多

く配置。④部活動数の確保。それと高校入試に対する不安もあったとのこと。

統廃合の説明責任と合意形成については、平成22年度において関係自治会3ヶ所、計約100名（放生津自治会、新湊自治会、地域振興会、中伏木地域振興会） ・新湊西部中学校保護者約30名、奈古中学校保護者役20名 ・新湊地区四校連絡協議会約80名 ・放生津小学校PTA意見交換会約30名 ・新湊小学校PTA意見交換会約50名、など平成23年度においても同様に合意形成のための会合を開いている。その為の根回しなども積極的に行なってきたとのことだった。

話し合いにおいての問題点は、校舎の位置、整備方法、学校生活心のケアや交流活動、人口増対策など 特に重要視された審議事項は、子供達にとって望ましい教育環境を確保すること。

保護者、祖父母、地域住民の意見については、意見交換会の中や以後統合までの間に出された意見、要望については、学校や教育委員会で検討しながら、できるものについては対応をした。

- ・ 生徒の心のケア（事前交流合唱大会など）
- ・ 通学距離増の補助（冬場の公共交通機関利用した通学に助成、月2000円）
- ・ 部活動ユニホーム助成（全額補助）
- ・ 学校の避難所機能の教科（津波50cmのため1mかさ上げ）

統合協議会について（協議項目）

- ① 校名、校訓、校歌、校章および後期について
- ② 教育目標の取り扱い
- ③ 式典行事の取り扱い
- ④ PTA活動の取り扱い（PTA部会）
- ⑤ 制服、運動服等の取り扱い（PTA部会）
- ⑥ 通学の取り扱い（PTA部会）
- ⑦ 部活動の取り扱い（PTA部会）
- ⑧ 事前交流活動の取り扱い（PTA部会）

この中で、難しかった課題は、校歌、校章、制服についてであり校歌については依頼した作家の作品に、だめだしがあり、結局お断りしたとのこと、校章ももめた挙句手直しをして強引に決定。制服に関しても、業者の思惑やメーカーの好みでもめたそう。結局統合した結果、生徒たちは教員の人事異動が小さかった事や新しく生まれた新湊中学校の校風を、自分たちで作り上げて行く

んだという、気構えを持つようになり、予想以上に仲良く学校生活を送っているとの事であった

これからの課題は、15校有る小学校の統廃合が必要となる。全校生徒が現在57名、101名、143名の小学校があり5年後にはこれ以上の小学校が、児童数の減少に悩まされると考えるとの事でした。

新湊中学校視察

学校というよりも美術館といったような建物で全面ガラス張り、全てバリアフリー、各教室も可視化を実行、全て見通せる教室や工夫されたレイアウトになっていた。生徒たちは挨拶を奨励されているせいか、元気な声で挨拶をしてくれた。その中で郷土芸能部の練習を見させてもらったが良かった。防犯カメラも入り口に設置されていて、安全面にも配慮があった

第3日 7月17日

富山県富山市 目的

富山型デイサービスについて、施設ふるさとのあかり訪問

富山型福祉サービスの特徴

① 小規模

街中の民家を改修して造った施設・地域と密着した「一つの家」

② 共生ケア

高齢者・身体障害者・知的障害者・心身障害児・乳幼児を同じ施設で同時に処遇する。(注：乳幼児については法定外)

平成5年に富山赤十字病院を退職した3人の看護師さん(惣万佳代子さん)が開所した「デイケアハウスこのゆびと一まれ」において、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしにかかわらず、受け入れた事から始まり、後に富山型と言われるようになった。

国の制度では、高齢者＝老人福祉法、身体障害者＝身体障害者福祉法、知的障害者＝知的障害者福祉法、障害児＝児童福祉法の各法により、施設の設備・人員の基準が定められていた事から、開所当初、この福祉サービスには、行政からの支援は無かった。

平成8年度から、障害者(児)へのサービスでは、富山市単独の「富山市在宅障害者(児)デイケア事業」(障害者(児)の一時預かり事業)の受託を開始、また、平成9年度から高齢者のデイケアサービスへの、

補助金の交付が実現した。

平成12年度には、介護保険制度がスタートし、介護保険制度の、通所介護事業所(高齢者のデイサービス事業所)としての指定を受けた事で経営が安定した。(平成9年度からの運営補助金は廃止)

その後、国の障害者福祉施設では、平成15年度から、事業者と利用者の契約により、サービスの提供を受ける支援費制度が開始され身体障害者については、介護保険制度の通所介護事業所を利用した場合、従来(平成3年度)可らの相互利用の制度に基づき、支援費制度の報酬が適用される事となった。

富山型デイサービス推進特区

(地域限定で規制を緩和し、経済の活性化を図る国の構造改革特区に、県と3市2町で共同申請していた「富山型デイサービス推進特区」が平成15年11月に認定され、介護保険上の指定通所介護事業所等での知的障害者、障害児のデイサービスの利用が可能となった。

感想

人間という動物は、群れて生きるものであるから、いろんな人が集まって暮らす事が、人間らしい生き方であるとあらためて感じた。高齢者や若い人、児童や乳幼児、障害のある人、健全な人、他人に世話になる人、世話をする人、それぞれが生きがいを持って暮らしている。そしてそれが余り大きくないコミュニティーだから上手くいくのかもしれない。全ての人が血のつながりは無いけれども、一つの家族としての意識を持っているところが素晴らしい。

NPO法人(ふるさとの明かり)訪問視察

元気のいい代表の方であった。それくらいのバイタリティーが必要なのかなと思った。実際施設を拝見すれば、とても普通の人では経営をすることがかなり難しいのかなと感じた。

しかし、県民性の違いかもしれないが、周囲の方々の理解と応援があり何とかやっているようだ。しかしこの業種に大手の企業や利益追求の目的で参入した人が多く、立ち上げても途中で投げ出したり、撤退する企業もあるとの事、代表いわく、もともとの理念を忘れては絶対にだめで、心のつながりを大切にしたいとの事でした。

雑談

代表の話があちこちにそれだし自慢話や身の上話などで、時間の調整に、同行した役所の若い職員が時々時計を見る事が、気になった。